

Yumeken

夢けんせつ
DREAM CONSTRUCTORS

秋

2015 Vol.676

◆特集○話題の焦点

日本に一つ、世界でもめずらしい、人が暮らす湖の島『沖島』

◆夢インタビュー

持ち前の負けん気と明るさでパラリンピックに挑む

◆第21回夢けんせつフォトコンテスト

受賞作品紹介

◆おじゃまします

土田建材グループ





子どもたちが参加して琵琶湖岸で行われたヨシの植樹



のどかな風景が流る家棟川流域

家棟川のエコ遊覧船(野洲市)

家棟川は野洲市内を流れる唯一の二級河川で、市内の約8割の河川が合流して、琵琶湖に注いでいます。

かつては田畑を潤し、流域の人々の暮らしに欠かせないものでしたが、上下水道が普及すると生活から遠いものとなり、多くの人々が川の環境に関心を払わなくなりました。

いつからか大量のゴミが不法投棄されるようになり、漁師として琵琶湖とともに生きてきた松沢松治さんは、家棟川のゴミが琵琶湖に流れ込んでしまうまでに、なんとかしたいと仲間や地元の自治会に



手漕ぎの屋根船でのんびりエコ遊覧

呼びかけて、ゴミを回収する活動を始めました。

しかし、集めても集めても「ゴミは一向に減らないため発想を転換、地元の漁師が操る遊覧船で、まだ豊かな自然が残る家棟川を案内し、四季折々の景観を体験しながら水辺の環境に関心を持ってもらうようにしようと、平成19年に「NPO法人家棟川流域観光船」が設立されました。

エンジンのない手漕ぎの船に乗ると、自然をより身近に感じることが出来ます。船頭さんとの会話をしみながらのんびり遊覧した後は、琵琶湖の幸をふんだんに使った「漁師料理」で、豊かな琵琶湖の恵みを味わうこともできます。

地元の自治会や学校、県外からもたくさんの方が訪れて、これまでに約8,000人が遊覧船に乗船しました。

NPO法人 家棟川流域観光船では、ほかにも水源と



水源となる森での植樹活動

なる大篠原の山に落葉樹を植樹する「漁民の森づくり」や琵琶湖岸でのヨシの植栽、

家棟川の生態調査、魚の観察会やしじみつかみ大会などを行ってきましたが、こういった活動が評価されて、昨年、日本水環境学会から「水環境文化賞」が贈られました。

取り組みが功を奏して、家棟川の「ゴミは少しずつ減っていますが、「琵琶湖の水環境をこれ以上悪化させないためには、一刻の猶予もならない」と松沢さん。

ホタルが飛び交い、ピワマスが遡上するかつての家棟川の水環境を取り戻すことは、再び美しい琵琶湖を蘇らせる第一歩になると、松沢さんたちは今日も琵琶湖の語り部として、水環境保全の重要性を訴えています。

NPO法人 家棟川流域観光船
●第一堤事務所
〒520-2416 野洲市堤421
TEL&FAX: 077-589-2267
●第二菖蒲事務所
〒524-0202 野洲市菖蒲262
TEL&FAX: 077-589-5215
Mail: yanamunegawa@forest.ocn.ne.jp



あやめ浜で行われたシジミつかみ体験

CONTENTS



2015 Vol.676 秋

2 湖国街かどウォッチング………

3 特集・話題の焦点………

3 日本に「つ」
世界でもめずらしい、
人が喜ばず湖の島
「沖島」

6 第21回

6 夢けんせつフォトコンテスト
受賞作品紹介

12 おじゃまします………
12 土田建材グループ

14 夢インタビュー………
14 持ち前の負けん気と
明るさでパラリンピックに挑む
宇田 秀生さん

15 近江建築探訪………
15 京都大学生存圏研究所
信楽MU観測所

16 夢けんひろば………
16 クイズ

18 「仕事の達人・遊びの達人」………
18 植物に癒され、
元気をもらおう日々
森井 和枝
近江うまいもの紀行

19 取材を終えて………
19 編集後記

表紙写真
「融雪配管工事」 山田 祐市
「焼ける大橋」 杉立 好正